

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200593	
法人名	株式会社シルバーケアサービス	
事業所名	グループホームひまわり	
所在地	愛媛県今治市八町西4丁目1番14号	
自己評価作成日	平成27年8月5日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 9月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平成14年9月の開設当初から、ホームの方針「柱」は変わっていない。家族介護を拠点に、家庭の温かさを大切に取り組んでいる。入居される方が、少しでも元気に、楽しく笑顔で過ごしていただけることがまず第一。その中で、自立支援、家族支援を並行して行っている。
「食事」「運動」「水分」「排泄」のテーマを重要視して日々の生活ケアに取り入れている。
「食事」・・・自家栽培の野菜や地元の新鮮な食材を使用して、毎日毎食手作りの食事を提供している。その過程は、利用者とともに作業している。
「運動」・・・体操、散歩、余暇活動など、日中適度な運動の習慣化を図っている。
「水分」・・・1日1500cc を目標とし、徹底してチェックしている。ジュースやゼリーなど工夫もしてできる限り多く摂取していただける工夫をしている。
「排泄」・・・排便対策として手作り野菜でジュースや調理を行ったり、運動、水分摂取に取り組んでいる。おむつから布パンツへ、可能性を追求しながらケアに当たっている。
・また、職員の教育・育成にも努力している。サービスの質向上には、職員の質の向上が必須。外部研修やホーム内研修を積極的に実施している。職員の意見も反映しながらホームの運営を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は田園と住宅が入り混じった土地柄に、法人が運営する小規模多機能型施設、デイサービス等と共に、地域の高齢者福祉拠点施設として機能している。各事業の利用者が馴染みになるよう造られた東屋は、近所の人と井戸端会議がちよくちよく開かれている。法人代表者が地元住民であることが大きい、事業所も開設して14年目で地域にすっかり馴染んでいる。事業所で再確認したのは、「食事は人の基本である」ことで、調理は全て出汁から取り食材も旬の物や市場での仕入れ等にこだわっている。一つ一つこだわりを持って、結果だけでなく途中経過にも手を抜かない仕事は、調理に限らず介護業務にも通じることである。職員の利用者への関わり、話し方、誘導、見守り等丁寧なのは、開設後一貫して基本からぶれない運営をしている代表者の背中を見ているからだと思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひまわり

(ユニット名) ほほえみ

記入者(管理者)

氏 名 佐伯陽子

評価完了日 平成27 年 8 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人の理念を各ユニットの職員間で話し合って作成した。具体的な指針も作成し、毎朝申し送り時に復唱している。ミーティングで話し合い、理念の共有を意識付けし、日々具体的に実践できるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 法人には各事業を包括するための理念があり、それを基本としながら、事業所内の利用者の生活を支援するための事業所独自の理念がある。管理者は、理念は日常の業務に活かされて初めて効力が発揮できると職員の意識付けに余念がない。職員も理念の上に自分の考えを乗せて、利用者に寄り添う介護を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 生活の中で社会参加、地域の方との交流をする機会が確保できるように地域の行事に参加したり買い物、散歩に出かけ、出会う近隣の方々との挨拶等している。毎年開催している納涼祭や地域学生の職場体験、ボランティアの慰問等を受け入れ積極的に交流している。	
			(外部評価) 事業所の周りは田畑が多く近隣には民家は少ない。そのため、気軽に近所付き合いは難しいが、ただ待っていても解決ができないと、職員は利用者と一緒に地域に出向くようにしている。法人も事業所の近くに東屋を作り、近所の人のたまり場になるようにしている。こうした地道な努力から、挨拶が増え東屋に人が集まり、事業所の催し物に参加者も増えてきている。事業所の立地条件の悪さを克服した事例であると言える。	土地に不慣れな不安感のある利用者が地域と付き合う際は、「職員と一緒に」が基本である。地域住民と交流するのであるから、当然である。ただ、利用者と地域との交流は利用者が主人公で職員は黒子に徹する対応が必要と思われる。つい利用者の代弁を職員がする場合があるが、すると相手は職員を見てしまう。つまり、利用者が後ろに引いている状態である。このようなことは少ないかも知れないが、私は黒子と意識を持って関わりを持つと、利用者と地域との関係はそれまでと異なったものになると思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議での報告や法人が運営しているサロンを活用した情報発信の他、電話等による見学や相談を随時受けている。必要な情報を提供するなど、地域の方々の理解が深まるよう今後も努めていきたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を2カ月に1回開催し、施設課題、利用者の状況事故報告と対策を話し合うことで出席者と情報共有、意見交換を行なっている。地域の情報も把握でき両者がかかわりを深める機会を持てることで協力体制も構築されてきている。 (外部評価) 運営推進会議の議事録からは、管理者が事業所の考えを地域に伝えたいと思っていることが分かる。その表れがヒヤリハットを事細かく行っていることである。事務的に数字だけを報告しているのではなく、なぜ起こったか、それは防げるのか、他に方法はあったか、止めても利用者の生活の質は担保できるか等、職員の接遇問題だけでなく、利用者のQOLを会議で問うことをしている。参加委員と利用者目線で事業所運営を推進しようとしている姿は評価できる。	運営推進会議で利用者に対して直接的にサービスが向上するような議題も考えてもらいたい。そのためには参加委員が利用者をより深く理解することが求められる。また、もっと多種多様な人に会議に参加してもらうことも必要と思われる。前者に対しては会議だけでなく事業所の催し物の準備段階から参加してもらう、後者には、議題に地域の人の生活に役立つ講演会を組み込む等、もう一練りの議題が求められる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者とは随時電話や訪問により事業所の現状報告や相談を行っており、適宜適切な指導、助言をいただき、サービス向上に努めている。担当者も協力的である。 (外部評価) 法人は、この事業所以外に幾つもの高齢者福祉の事業運営を行っており、市担当者との話し合いは多岐に渡っている。事業所は小規模多機能施設とデイサービスセンターと隣接しており、いわゆる地域の福祉拠点としても機能している。そのため事業所内の問題だけでなく、他事業や地域のよろず相談の件でも市担当者と連絡を取り合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関することを十分理解し、内部研修やミーティングで話し合い正しいケアを実践している。職員は、鍵をかけないケアの意義を理解しており、玄関や部屋は常に開放的にしている。 (外部評価) 現在、玄関は施錠していないが、年明けに精神的な状態がとて不安定な利用者が入居した際、インテークの段階で玄関の施錠が家族等から要望があった。そのため管理者は、利用者の安全を守るために施錠を決断した。開設以来施錠の経験は無く、職員も居心地の悪さを実感したそうだ。解錠までには時間を要したが、職員の関わりが功を奏し今では利用者は落ち着いた生活を送っている。この経験から事業所では「身体拘束はもちろん、施錠等もすべきではない。」と再認識をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 内部研修や外部研修に参加し、高齢者虐待防止法等についての知識を習得している。虐待の危険を早期に見つけ、関係機関と協働して速やかに対応していく。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 内部研修や外部研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての知識を習得している。必要に応じ、関係者と話し合いながら総合的な利用者支援に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書や契約書、その他、具体的に説明を行い理解が得られるよう努めている。利用者や家族が理解納得できるよう、不安や疑問点について、丁寧に説明するよう心掛けている。契約内容に変更が生じるときは、その都度、説明、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議で気軽に意見をいただける場を提供している。また、日頃より、面会や電話などで密に連絡しており、意見や要望を把握し、迅速に対応することに努めている。 (外部評価) 利用者の住まいが比較的近い人が多いようで家族の面会が多い。訪問時も昼食に家族と出掛ける人、着替えを持ってきた家族、散歩に連れ出した息子さんと次々と訪れていた。家族等が気軽に面会できるのは事業所の受け入れ態勢がしっかりしているからである。これは事業所と家族等の話し合いができていており、意見や要望も丁寧に聞き取っている証拠である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者や管理者はミーティングや日々のコミュニケーション等で意見の言いやすい環境になるように努めている。利用者やその家族、職員の意向を重視してよりよいケアと健全な運営への思いを持っている。また職員の自発的職務遂行を期待している。 (外部評価) 法人全体で考えれば管理者は中間管理職であり、様々な事の最終的な決定は代表者である。一般の会社組織なら縦社会であるが、ここでは管理者と職員が一丸となり利用者の生活を担っている。そしてそれを代表者が支えているという構図がある。ボトムアップである。日常的に管理者と職員は話し合いを行い、代表者が頻繁に現場に出向きそれを拾い集めるといふ具合だ。職員の意見を大切にしている、現場が主人公の感がある事業所である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、個々の就業状況を把握して評価している。人事考課による自己評価（年2回）、企業評価、個人面談等を実施。就業環境の整備にも積極的な取り組みをしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は職員育成の重要性を認識している。月1回の内部研修では各自が外部研修で養われた知識をまとめ発表し職員全体で向上できるようにしている。よりよいチームケアを目指すことを期待している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に入会しており、研修会参加等で交流の機会がある。また、全国規模での研修へも可能な限り参加して、サービスの向上に努めている。平成26年4月より今治市内にてグループホーム交流会を結成し、2ヶ月に1回の合同研修と意見交換を行いお互いのサービス向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人とのコミュニケーションを大切にし、家族とも密に連絡を取りつながりを持てるようにしている。些細なことでも職員間で情報を共有し、良好な関係作りができるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ホームの方針を理解していただくだけでなく、思いや要望などをしっかり受けとめ、家族な納得できるまで時間をかけて説明し、共に利用者の生活を支えていけるよう働きかけている。家族との連絡を密にして良好な関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 「その時」の必要な支援を見極めるために、必要に応じて管理者や職員、法人内職員、他事業所や専門員らへ相談して適切な対応ができるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は共に過ごしている間に、本人の力のできることの把握に努め自分で考えながら生活が送れるように支える。高齢者が得意なことを教えてもらったり役割を見つけてもらい、良好な関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃から家族と密に連絡を取り、日々の生活状況や、健康状態を伝えたり、支援の方法を相談し、共に考え、必要時には協力していただける関係が築けている。遠方の方も定期的な面会や手紙・電話などで交流している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人、知人、馴染みの方が気軽に面会に来られるよう、開放的で家庭的な雰囲気づくりに努めている。本人の要望（行きたい場所）など、希望に添えるよう対応している。つながりが薄れないように地域の行事に参加する。 (外部評価) 事業所では、玄関先の花壇やベンチ、近くの東屋など、靴を脱がないでお喋りができる工夫を施し、馴染みの人との関わりを支援している。ちょっと立ち話、挨拶から長話になる等、日常生活の中で友人知人との繋がりが意識できる支援である。馴染みの人との関係は「普通」のことであり、それを「普通」に取り込んでいる生活は、無理なく継続ができる。普通の生活とは何かが良く考えられた支援である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で共に支えながら、一人一人が喜怒哀楽に生活することで なじみの関係ができてきて家庭的な雰囲気を大切にして笑顔 あふれる生活ができるようにスタッフや他利用者との良好な 関係作りに配慮している。家事やレクエーションなどして自 然な会話ができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これ までの関係性を大切にしながら、必要に応 じて本人・家族の経過をフォローし、相談 や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了した場合は、必要に応じ、面会、相談な ど支援を行っている。関係者に対しての情報伝達も行ってい る。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向 の把握に努めている。困難な場合は、本人 本位に検討している	(自己評価) 本人や家族に直接聞いたり、生活の中での会話や行動などか ら希望や意向の把握に努めている。 (外部評価) 事業所では利用者の思いを知ろうと職員に雑談力の強化を 図っている。多くの場合、「何が好き」と聞いても利用者は 「何でも好き」と答える。しかし本当に好きなものは雑談の 中にあり、「ああ、私昔からこれが好き」と不意に出てくる ものである。それを自然に発せられるようにするのが雑談力 で、言い換えれば、利用者の思いや意向の把握である。利用 者の特性を良く理解した支援であると言える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経過 等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係者から、これまでの生活歴などを継続的に 聞き、把握に努めて、本人や家族の理解、支援に努めてい る。現在の言動等も家族に伝え、より良いケアへつなげられ るよう取り組んでいる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の一日の生活でできることや役割を見つけて残存能 力を大切にし、支援の方法や経験や研修で学び、ミーティン グで全スタッフが情報共有できるように取組み総合的な支援 ができる職場であるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月一回のミーティングで毎日の生活で本人や家族さんからの要望や変化に敏感に気づき、スタッフの間でのコミュニケーションなど話し合いをし介護計画を作成している。必要に応じて変更などし、より良いケアが出来るように努めている。 (外部評価) 介護計画はミーティングで計画作成担当者の素案を話し合い、モニタリングは利用者それぞれに担当職員を決め、その確認は全員で行っている。家族等の意見は面会時に聞き取ったり、電話で確認したりして、計画に取り入れるようにしている。本人は改めて聞くと「あんたの良いうように」と言われるので、普段の会話から聞き取る工夫をしている。介護計画の見直しは半年ごとが多いが、新規利用者には3カ月を目安に話し合いをしている。	職員のモニタリングに専門性を上げる取り組みを期待したい。現行のモニタリングは、担当者の主観に寄るものが多い。ミーティングでの発表に、「できたと思う」とか「大丈夫だった」が多いのが主観たる所以である。モニタリングを客観的に行うには介護計画自体に工夫が求められる。データ化できる項目を入れると記録することができる。記録化は職員の客観性を高められると思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子をありのままに記録し、次の介護計画の見直しや変更に役立てている。スタッフは毎朝のもち送りやその度、必要に応じて話し合い等情報交換をし、的確な伝え方をし、日々出来ることを工夫している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 社会資源の把握の事に努め、必要に応じて柔軟な支援に努めている。地域の訪問看護ステーションや医師との連携が少しずつホームでの暮らしを続けられるように出来るケアに結びついている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議のメンバーには地域の民生委員や市の職員、自治会長がおり、協力的であり、相談や助言が得られる。また、ボランティア劇団、警察、消防、教育機関と協力しながら安全で豊かに充実した暮らしができるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 平成26年10月よりかかりつけ医を変更。家族にも承諾を頂い ている。緊急時には往診にも来ていただいている。家族と相 談しながら、他の医療機関や専門医の情報を提供し、適切な 支援が受けられるように、家族の方も助言、情報を伝え、病 院受診に行っていた。 (外部評価) 事業所の協力医の変更はあったが、利用者のかかりつけ医は それぞれのままである。ただ、緊急時などは協力医が対応す ることが多く、往診のついでに相談できるメリットからかか りつけ医になる事もある。通院介助の基本は家族であるた め、事業所に帰ってくると看護師でもある管理者が結果を確 認している。受診前に家族が不安である場合には管理者がア ドバイスを行ったり、同行したりしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 平成26年10月より訪問看護ステーションすみれと契約し医療 連携を取っている。日々の健康管理はもちろん、状態の変化 や異常には十分に注意して早期対応や緊急時の対応ができ るよう努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、面会や相談対応により不安の軽減に努めてい る。病院関係者や本人・家族と話し合いをもち、早期の退院 につながるよう支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化及び終末期の支援の対応について、時機を見ながら、 本人、家族、関係者らと納得のいくまで話し合っている。看 取りについて、運営推進会議で意見交換を行い、第三者の意 見も参考に体制の見直しを実施している。 (外部評価) 事業所では、医療行為が必要になる場合や口から栄養が取れ なくなった場合等、事業所での生活が難しいラインを明確に しており、家族等にもそれを伝えている。今年に入り、最後 まで医療行為が必要ではない、家族が主となり利用者に付き 添う、の二点が守れるケースがあり、看取りを経験してい る。事業所には会議室に12畳の和室が続いている部屋があ り、そこを看取りの場所に活用した。他の利用者の日常生活 を巻き込むことなく看取る事ができたようだ。貴重な経験を している事から、同じ条件であれば事業所で看取るよう検討 している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は消防署の応急手当講習や内部研修による急変時対応の研修を受けて、実践力を身につけている。利用者の状況把握に努め、状態に応じた対応に備えている。AEDを設置しており、全職員が使用法を学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練を年2回行っている。地域の災害訓練にも参加し、学びを深めた。春の避難訓練には地域の方が参加してくれ、意見交換ができた。マニュアルの見直しや地域連携の重要性、訓練の大切さを改めて感じている。地域と互いにサポートし合い、地域の災害対策にも協力していく。運営推進会で、災害防災士のかたが緊急トイレの作成など研修を行ってくださった。 (外部評価) 火災時の避難訓練には地域の防災士とコーディネーターが参加している。隣接している小規模多機能施設と合同で、きちとした訓練であるために協力が得られるのだと思われる。夜間を想定した訓練は一番厳しい時間帯であり、真剣さが伝わってくる。職員はその大変さから、「火災は出さないように点検が大事」と言う。避難訓練により、日々何をしないといけないかを知り、訓練がその場で終わらない取り組みである。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 雇用契約時には秘密保持についての誓約書を交わしている。内部研修でプライバシーの確保について学んでいる。全職員が、具体的な介護の方法、声掛けの方法などに配慮して、さりげないサポートができるよう努める。 (外部評価) 利用者への声掛けは、職員の個性により多少の違いはあるが、誰もが地元特有のイントネーションで優しい。利用者も穏やかにそれを聞いており、居心地が良さそうである。反応が余り見られない利用者への対応も声掛けも他の人と変わらない。当たり前の事であるが、それを見ている利用者は「私もここに居て良いんだ」と安心していているようだ。利用者の人格を尊重しているケアで評価できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定の場面を大切にして、能力に応じた対応をし、希望や願いを意図的に引き出せるよう関わっていく。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切にした支援をしている。起床、入浴、食事、トイレ等のケアも個々のリズムを尊重し、柔軟な支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 必要に応じ、本人と話をしながらお化粧品やおしゃれのお手伝いをしている。行きつけや希望の美容室へ行けるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は全て手作りである。農園で野菜を栽培している。地元の食材、旬のものを沢山使った料理をバランスに配慮して全て手作りで食事を提供している。食事の準備や片づけはできる範囲で利用者と一緒に行っている。食べる能力に合わせ、刻みや食器を工夫している。食事中は職員が見守り、食事介助が必要な方には一部介助している。 (外部評価) 「調理には出汁から全て取っています。最近まではマヨネーズも作っていました。」と管理者が言い、代表者が食べるものにこだわっている事が分かる。昼食後、満腹になっても微かな脱力感が出ないのは、そのこだわりからだと思われる。これは高齢者の健康維持に大きな貢献を果たしていると考えられ、高く評価すべき点であろう。「料理と言うものを考え直しました」と職員は言い、家庭の食生活まで変えた代表者の影響力は甚大である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 好みや習慣を把握し、十分な水分摂取ができるよう摂取量をチェックして職員全員で気をつけている。バランスのよい食事の提供には十分配慮している。好き嫌いなど、偏食がある場合は、違った形で摂取できるよう方法を検討して対応している。健康管理と共に、状況に応じ訪問看護や主治医にも対応策を相談している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食前の口腔体操を行い、食後は毎回個々にあった口腔ケアを実施している。義歯は每晚洗浄消毒している。個々の口腔状態を把握し、必要に応じて、専門医を受診し、適切な処置や指導を受けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄をトイレでできるようにトイレチェック表を使用して一人一人の排泄パターンを把握し、「おむつ0ゼロ」を目標に、おむつやパット使用を減らせるよう努めている。重度化がすすんでも、なるべくトイレで排泄できるように支援している。 (外部評価) 利用者は昼間だけでなく夜間もトイレで排泄している人が多い。利用者の平均年齢が比較的高いにもかかわらずである。これは職員の介助に気兼ねがないためであろう。職員の「トイレで排泄した方が気持ちがいい」と利用者の本音を察知している表れでもある。利用者の状態を見てポータブルやパッド等を使う場合もあり、利用者に気を使わせない排泄支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適度な運動、水分の摂取、食物繊維の多い食事など予防・対応に努めている。おかゆやきな粉牛乳など、調理に工夫している。腹部マッサージも行っている。必要に応じ、主治医に相談して指示や処方を受けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日夕方に一人一人のタイミングやペースでゆっくり入浴してもらっている。無理強いをせず、楽しく入ってもらえるよう声掛け等工夫している。 (外部評価) 浴室は2階はゆとりのある家庭用サイズであるが、1階は3～4名が一緒に入れる広さがあり、介助が2人の場合もゆっくり作業ができる。利用者にはどんな状態でも入浴を楽しんでもらいたいという代表者の思いからこの広さを計画したのだろうが、事業所は開設して14年目なので、代表者に先見の目があった事が分かる。この思いは連綿と職員に引き継がれており、優しい入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間しっかり安眠できるよう、日中身体を適度に動かせる支援をしている。生活リズムを整え、個々のペースで過ごせるよう配慮している。体調などにも留意して、必要な休息がとれるよう、また、入眠まで落ち着いた時間が過ごせるよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 平成26年10月より平野薬局と提携し（一部の利用者さんを除いて）日々の健康管理と主治医との連携を密にし、処方されたものは処方箋等で、目的、副作用、用法、用量などを十分理解して、チェック表により確認を慎重にしながら服薬管理をしている。必要に応じ、主治医へ状況を連絡して、治療や服薬調整を行い錠剤を粉末に変えるなどの工夫をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や希望などを把握し、一人一人が生活に楽しみや生きがいを見つけられるよう日々の余暇活動を考えて支援している。家族や友人とのお出かけなど、外出や外泊も自由にでき、気分転換につながっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の行事や買い物、季節のお出かけなど、楽しみながら過ごせるよう支援している。家族とドライブやお出かけなどもよく行かれている。外出時には家族さんも同行され、ボランティアをしてくださっている。 (外部評価) 法人が他の事業も運営しており、外出する際の車両は整っている。そのため遠出の外出を定期的に行っている。日々の外出は外気浴を意識した散歩や庭での草花観賞等である。事業所が道路から少し入っているため利用者の安全は担保できている。何より1階リビングから庭に出やすい設計であるため、季節を肌で感じるためには有効である。隣接している小規模多機能施設の利用者との雑談も外出の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の希望や力に応じて支援している。お小遣いとして預かっているお金の管理状況を、定期的に家族や本人に伝えて、合意を得ている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 月1回の手作り新聞に手紙を書き、家族へ送っている。個々の希望により、電話で要望を伝えるなど支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 段差のないバリアフリー構造である。手すりも設置している。室温は、床暖房、空調設備を設置し、体調面へ配慮しながら調整している。生活の音や炊事の香り、絵画や工作物、テーブルの上には季節の花など、季節や五感に刺激のある環境を作っている。なじみのある音楽も流す時間帯がある。 (外部評価) 共用空間は、リビングとダイニングを区分けしてもまだまだ余裕があり、グランドピアノを置いているが圧迫感は全然受けない。音楽療法をしていても興味を示さない人はダイニングから眺めていると言うが、その距離感は理解できる。東南向きの4連の大きな窓からは風が気持ち良く入ってくる。利用者はリビングでみんなと居ながら自分だけの空間を楽しめるとい、ゆとりある生活を共用スペースで送ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食卓の間、ソファの間、畳の間など、ゆったりと過ごせるスペースがある。庭にも自由にでき、ベンチを置き、庭には四季折々の花々が咲き憩いの場となっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は、家族に依頼し、自宅で使っていたもので馴染みのモノをもってきていただき、過ごしやすく居心地のよい部屋をつくっていただいている。手作りカレンダー、写真、工作物を飾っている。 (外部評価) 各居室にはベッドと収納があり、布団と着替えがあれば生活はできるが、利用者がそれぞれの思い入れがある物を配置し個性的な部屋になっている。ベッドの位置が利用者の身体特性に合わせ部屋毎に違っているのは事業所の配慮と考えられる。自室に案内してくれた利用者が「何にもない」とほほ笑んでいたが、記念写真やイベントの作品の説明は少し自慢げであった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の「できる力」を把握し、安心して過ごせる環境作りを工夫するよう努めている。家族や専門員と相談して迅速に対応している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200593	
法人名	株式会社シルバーケアサービス	
事業所名	グループホームひまわり	
所在地	愛媛県今治市八町西4丁目1番14号	
自己評価作成日	平成27年8月5日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 9月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平成14年9月の開設当初から、ホームの方針「柱」は変わっていない。家族介護を拠点に、家庭の温かさを大切に取り組んでいる。入居される方が、少しでも元気に、楽しく笑顔で過ごしていただけることがまず第一。その中で、自立支援、家族支援を並行して行っている。 「食事」「運動」「水分」「排泄」のテーマを重要視して日々の生活ケアに取り入れている。 「食事」・・・自家栽培の野菜や地元の新鮮な食材を使用して、毎日毎食手作りの食事を提供している。その過程は、利用者とともに作業している。 「運動」・・・体操、散歩、余暇活動など、日中適度な運動の習慣化を図っている。 「水分」・・・1日1500cc を目標とし、徹底してチェックしている。ジュースやゼリーなど工夫もしてできる限り多く摂取していただける工夫をしている。 「排泄」・・・排便対策として手作り野菜でジュースや調理を行ったり、運動、水分摂取に取り組んでいる。おむつから布パンツへ、可能性を追求しながらケアに当たっている。 ・また、職員の教育・育成にも努力している。サービスの質向上には、職員の質の向上が必須。外部研修やホーム内研修を積極的に実施している。職員の意見も反映しながらホームの運営を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は田園と住宅が入り混じった土地柄に、法人が運営する小規模多機能型施設、デイサービス等と共に、地域の高齢者福祉拠点施設として機能している。各事業の利用者が馴染みになるよう造られた東屋は、近所の人と井戸端会議がちよくちよく開かれている。法人代表者が地元住民であることが大きい、事業所も開設して14年目で地域にすっかり馴染んでいる。事業所で再確認したのは、「食事は人の基本である」ことで、調理は全て出汁から取り食材も旬の物や市場での仕入れ等にこだわっている。一つ一つこだわりを持って、結果だけでなく途中経過にも手を抜かない仕事は、調理に限らず介護業務にも通じることである。職員の利用者への関わり、話し方、誘導、見守り等丁寧なのは、開設後一貫して基本からぶれない運営をしている代表者の背中を見ているからだと思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひまわり

(ユニット名) ゆめ

記入者(管理者)

氏 名 佐伯 陽子

評価完了日 平成27 年 8 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 各フロアで理念を職員間で話し合い行動指針を加わえている。指針についてはミーティング等で話し合い見直し利用者さんと向き合う気持ちを大切に考えている。 (外部評価) 法人には各事業を包括するための理念があり、それを基本としながら、事業所内の利用者の生活を支援するための事業所独自の理念がある。管理者は、理念は日常の業務に活かされて初めて効力が発揮できると職員の意識付けに余念がない。職員も理念の上に自分の考えを乗せて、利用者に寄り添う介護を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事（文化祭・運動会・お祭り）などに参加している。地域ケア会議にも参加し、他の団体の方とも交流を図った。防災訓練にも運営推進会のメンバーの方も参加され、交流が広がった。 (外部評価) 事業所の周りは田畑が多く近隣には民家は少ない。そのため、気軽に近所付き合いは難しいが、ただ待っていても解決ができないと、職員は利用者と一緒に地域に出向くようにしている。法人も事業所の近くに東屋を作り、近所の人のたまり場になるようにしている。こうした地道な努力から、挨拶が増え東屋に人が集まり、事業所の催し物に参加者も増えてきている。事業所の立地条件の悪さを克服した事例であると言える。	土地に不慣れな不安感のある利用者が地域と付き合う際は、「職員と一緒に」が基本である。地域住民と交流するのであるから、当然である。ただ、利用者と地域との交流は利用者が主人公で職員は黒子に徹する対応が必要と思われる。つい利用者の代弁を職員がする場合があるが、すると相手は職員を見てしまう。つまり、利用者が後ろに引いている状態である。このようなことは少ないかも知れないが、私は黒子と意識を持って関わりを持つと、利用者と地域との関係はそれまでと異なったものになると思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々が気軽に相談などに来てもらえるよう、法人がサロンを開いている。また、電話や訪問による相談も随時受けている。認知症サポートを広める為に自治会に参加し報告をさせていただいた。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は2ヶ月1度開催している。年度変わりに自治会長が代わるが引継ぎもスムーズで参加していただいている。事故報告等に対応を考えてくださったり、有意義な時間となっている。 (外部評価) 運営推進会議の議事録からは、管理者が事業所の考えを地域に伝えたいと思っていることが分かる。その表れがヒヤリハットを事細かく行っていることである。事務的に数字だけを報告しているのではなく、なぜ起こったか、それは防げるのか、他に方法はあったか、止めても利用者の生活の質は担保できるか等、職員の接遇問題だけでなく、利用者のQOLを会議で問うことをしている。参加委員と利用者目線で事業所運営を推進しようとしている姿は評価できる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 担当者とも密に連絡を取っており、事業所の現状報告や相談などに迅速に対応や、助言・指導していただいている。 (外部評価) 法人は、この事業所以外に幾つもの高齢者福祉の事業運営を行っており、市担当者との話し合いは多岐に渡っている。事業所は小規模多機能施設とデイサービスセンターと隣接しており、いわゆる地域の福祉拠点としても機能している。そのため事業所内の問題だけでなく、他事業や地域のよろず相談の件でも市担当者と連絡を取り合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 内部研修や外部研修に参加し、身体拘束についての知識を習得し実践している。ドアの施錠は管理者と家族に許可を得て実施している。報告書も作成している。安全、安心に取り組む事故の無いように対応している。 (外部評価) 現在、玄関は施錠していないが、年明けに精神的な状態がとて不安定な利用者が入居した際、インテークの段階で玄関の施錠が家族等から要望があった。そのため管理者は、利用者の安全を守るために施錠を決断した。開設以来施錠の経験は無く、職員も居心地の悪さを実感したそうだ。解錠までには時間を要したが、職員の関わりが功を奏し今では利用者は落ち着いた生活を送っている。この経験から事業所では「身体拘束はもちろん、施錠等もすべきではない。」と再認識をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 内部研修や外部研修に参加し、高齢者虐待防止法等についての知識を習得している。利用者の個人の尊厳を大切にすることを考え、虐待の危険を早期に見つけ、関係機関と協働して速やかに対応していく。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 内部研修や外部研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての知識を習得している。必要に応じ、関係者と話し合いながら総合的な利用者支援に努めている。成年後見制度を利用されている利用者さんのプライバシーにも配慮するようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書や契約書、その他、具体的に説明を行い理解が得られるよう努めている。利用者や家族が理解納得できるよう、不安や疑問点について、丁寧に説明するよう心掛けている。契約内容に変更が生じるときは、その都度、説明、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議で気軽に意見をいただける場を提供している。また、日頃より、面会や電話などで密に連絡しており、意見や要望を注意して耳と傾け、把握し、迅速に対応することに努めている。 (外部評価) 利用者の住まいが比較的近い人が多いようで家族の面会が多い。訪問時も昼食に家族と出掛ける人、着替えを持ってきた家族、散歩に連れ出した息子さんと次々と訪れていた。家族等が気軽に面会できるのは事業所の受け入れ態勢がしっかりしているからである。これは事業所と家族等の話し合いができていており、意見や要望も丁寧に聞き取っている証拠である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者や管理者は、ミーティング等で意見交換を行い、利用者や職員の意向を重視して、より良いケアと健全な運営への強い思いを持って運営している。また、職員の自発的、積極的な職務遂行を非常に期待し、評価している。 (外部評価) 法人全体で考えれば管理者は中間管理職であり、様々な事の最終的な決定は代表者である。一般の会社組織なら縦社会であるが、ここでは管理者と職員が一丸となり利用者の生活を担っている。そしてそれを代表者が支えているという構図がある。ボトムアップである。日常的に管理者と職員は話し合いを行い、代表者が頻繁に現場に出向きそれを拾い集めるといふ具合だ。職員の意見を大切にしている、現場が主人公の感がある事業所である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、個々の就業状況を把握して評価している。人事考課による自己評価（年2回）、企業評価、個人面談等を実施。就業環境の整備にも積極的な取り組みをしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は、職員育成の重要性を認識している。個々の能力を把握し、内部研修（月1回）の実施や外部研修に参加できる機会を確保している。職員の知識や技術向上による、より良いチームケアを目指しつつ、業務遂行ができることを期待している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に入会しており、研修会参加等で交流の機会がある。また、全国規模での研修へも可能な限り参加して、サービスの向上に努めている。他のグループホームからの見学依頼も快く受け入れている。今治グループホーム交流会を昨年度より作り、今治市全体のグループホーム向上の為の話し合いの場を設けた。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人とのコミュニケーションを大切にし、家族とも密に連絡を取りつながら持てるようにしている。綿密なアセスメントを作成し、些細なことでも職員間で情報を共有し、良好な関係作りができるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ホームの方針を理解していただくだけでなく、思いや要望などをしっかり受けとめ、共に利用者の生活を支えていけるよう働きかけている。家族会も開催（年2回）し、家族間の交流も良好である。日頃から気軽に立ち寄っていただけるよう、家族との連絡を密にして良好な関係づくりに努めている。また、利用者さんについて様子などなるべく早期に連絡している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 「その時」の必要な支援を見極めるために、必要に応じて管理者や職員、法人内職員、他事業所や専門員の方々と話し合い適切な対応ができるように努め、また継続している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の個性や残存能力を見出し、本人が主体的に生活が送れるように支援している。家事（野菜の下処理）などを共に行い、お互いに学び・支えあう関係が築けている。職員と利用者の絆を大切にしていきたいと考えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃から家族と密に連絡を取り、日々の生活状況や、健康状態を伝えたり、支援の方法を相談し、共に考え、必要時には協力していただける関係が築けている。毎月、利用者の様子を伝えるために、写真付の新聞を送り遠方の家族にも安心していただけるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方が気軽に面会に来られるよう、開放的で家庭的な雰囲気づくりに努めている。本人の要望などをコミュニケーションを通じて把握し、希望に添えるように対応できるように努めている。面会者も体操やレクリエーションに参加されるように声をかけ一緒に時間をすごしていただいている。	
			(外部評価) 事業所では、玄関先の花壇やベンチ、近くの東屋など、靴を脱がないでお喋りができる工夫を施し、馴染みの人との関わりを支援している。ちょっと立ち話、挨拶から長話になる等、日常生活の中で友人知人との繋がりが意識できる支援である。馴染みの人との関係は「普通」のことであり、それを「普通」に取り込んでいる生活は、無理なく継続ができる。普通の生活とは何かが良く考えられた支援である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共に支えながら喜怒哀楽の生活をする中でなじみの関係ができ、家庭的な雰囲気大切に、笑顔あふれる生活ができるよう、職員や他の利用者と良好な関係づくりに配慮している。家事や余暇活動などをしながら、自然なコミュニケーションができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了した場合は、必要に応じ、面会、相談など支援を行っている。関係者に対しての情報伝達のフォローも行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人の思いや希望を、利用者や家族に聞いたり、コミュニケーションの中から把握し支援できるよう、ミーティングで話し合いながらすすめている。 (外部評価) 事業所では利用者の思いを知ろうと職員に雑談力の強化を図っている。多くの場合、「何が好き」と聞いても利用者は「何でも好き」と答える。しかし本当に好きなものは雑談の中にあり、「ああ、私昔からこれが好き」と不意に出てくるものである。それを自然に発せられるようにするのが雑談力で、言い換えれば、利用者の思いや意向の把握である。利用者の特性を良く理解した支援であると言える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係者から、これまでの生活歴やなじみの暮らし方などを聞き、把握に努めている。生活歴が把握できにくい利用者については、日々行動や言動に注意深く耳を傾け、職員間で話し合いこれからの支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々変化していく利用者の様子を、関わり合いの中で把握し、状態に合わせた支援を行えるように努め職員間で話し合っている。現状の把握を知るために、ケアのQOL向上を図った、内部・外部研修に参加し、総合的な支援ができる力を養えるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のミーティング、朝の申し送り等で、日頃の本人や家族からの要望や変化を把握し、職員間でよく話し合い、職員の利用者へのケアに対する不安も解消しながら、介護計画を作成している。必要に応じ見直しを行い、その人に合ったより良いケアの実践を目指している。 (外部評価) 介護計画はミーティングで計画作成担当者の素案を話し合い、モニタリングは利用者それぞれに担当職員を決め、その確認は全員で行っている。家族等の意見は面会時に聞き取ったり、電話で確認したりして、計画に取り入れるようにしている。本人は改めて聞くと「あんたの良いうに」と言われるので、普段の会話から聞き取る工夫をしている。介護計画の見直しは半年ごとが多いが、新規利用者には3カ月を目安に話し合いをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子などの把握に努め、個別記録をしている。また、利用者の服薬管理については、職員全員が把握できるよう個別ノートを作り、変化した際の情報の共有を図っている。職員間の申し送りでの情報の必要性を理解し、工夫を交えて、情報交換を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の状況に合わせて、家族や施設全体で話し合い、柔軟な対応に努めている。利用者や家族にとって最善の方法を相談し合い、必要に応じて外部からの訪問看護を利用させていただいたり、工夫をおこなっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議のメンバーには地域の民生委員や市の職員、自治会長があり、協力的であり、相談や助言が得られる。また、ボランティア劇団、警察、消防、教育機関と協力しながら安全で豊かな暮らしができるよう支援している。その中で利用者がより安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) H26年10月よりかかりつけ医を変更。家族にも承諾をいた っている。緊急時には往診にもきていただける。家族と相談 しながら、他の医療機関や専門医の情報を提供し、適切な支 援が受けられるよう支援し、家族の方も、助言・情報を伝 え、病院受診にいただいている。 (外部評価) 事業所の協力医の変更はあったが、利用者のかかりつけ医は それぞれのままである。ただ、緊急時などは協力医が対応す ることが多く、往診のついでに相談できるメリットからかか りつけ医になる事もある。通院介助の基本は家族であるた め、事業所に帰ってくると看護師でもある管理者が結果を確 認している。受診前に家族が不安である場合には管理者がア ドバイスを行ったり、同行したりしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 平成26年10月より訪問看護ステーションすみれと契約し医療 連携を取っている。日々の健康管理はもちろん、状態の変化 や異常には十分に注意して早期対応や緊急時の助言、対応が できるよう努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、面会や相談対応により不安の軽減に努めてい る。病院関係者や本人・家族とサマリーなどを活用して話し 合い、早期の退院につながるよう支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 時機を見ながら、本人、家族、関係者らと納得のいくまで話 し合っている。看取りについては、終末期の利用者を実際に 介護支援し、訪問看護・訪問診療などを実施し医療機関との 連携を蜜に看取りを実施した事例もある。管理者・家族・看 護師・ケアにあたる介護職員とでケア会議を開き、職員全員 の支援の方向性をあわせ、家族との話し合いを重ねながら取 組む。 (外部評価) 事業所では、医療行為が必要になる場合や口から栄養が取れ なくなった場合等、事業所での生活が難しいラインを明確に しており、家族等にもそれを伝えている。今年に入り、最後 まで医療行為が必要ではない、家族が主となり利用者に付き 添う、の二点を守れるケースがあり、看取りを経験してい る。事業所には会議室に12畳の和室が続いている部屋があ り、そこを看取りの場所に活用した。他の利用者の日常生活 を巻き込むことなく看取る事ができたようだ。貴重な経験を している事から、同じ条件であれば事業所で看取るよう検討 している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は消防署の応急手当講習や内部研修による急変時対応の研修を受けて、実践力を身につけている。利用者の状況把握に努め、状態に応じた対応に備えている。AEDを設置しており、全職員が使用法を学習している。災害時の当避難訓練はダミーを使用し利用者さんを運ぶ練習をした。緊急時に迅速に対応できるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練を年2回行っている。地域の災害訓練にも参加し、学びを深めた。春の避難訓練には地域の方が参加してくれ、意見交換ができた。マニュアルの見直しや地域連携の重要性、訓練の大切さを改めて感じている。地域と互いにサポートし合い、地域の災害対策にも協力していく。災害防災士の方が運営推進会で応急トイレの作り方などの研修を行ってくださった。 (外部評価) 火災時の避難訓練には地域の防災士とコーディネーターが参加している。隣接している小規模多機能施設と合同で、きちとした訓練であるために協力が得られるのだと思われる。夜間を想定した訓練は一番厳しい時間帯であり、真剣さが伝わってくる。職員はその大変さから、「火災は出さないように点検が大事」と言う。避難訓練により、日々何をしないといけないかを知り、訓練がその場で終わらない取り組みである。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 雇用契約時には秘密保持についての誓約書を交わしている。内部研修でプライバシーの確保について学んでいる。全職員が、具体的な介護の方法、声掛けの方法などに配慮して、さりげないサポートができるよう努める。 (外部評価) 利用者への声掛けは、職員の個性により多少の違いはあるが、誰もが地元特有のイントネーションで優しい。利用者も穏やかにそれを聞いており、居心地が良さそうである。反応が余り見られない利用者への対応も声掛けも他の人と変わらない。当たり前の事であるが、それを見ている利用者は「私もここに居て良いんだ」と安心しているようだ。利用者の人格を尊重しているケアで評価できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定の場面を大切にして、能力に応じた対応をし、希望や願いを意図的に引き出せるよう関わっていく。自己決定をすることが困難な利用者に対しては、日々の行動・言動・表情などを観察し、できる限り本人が好む方法を、職員間で話し合い支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人一人のペースを大切にした支援をしている。起床、入浴、食事、トイレ等のケアも個々のリズムを尊重し、柔軟な支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝の洋服選びから、外出時のおしゃれも利用者の好み応じて自由に着ていただいている。必要に応じてこちらがアドバイスを行い支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 農園で野菜を栽培している。地元の食材、旬のものを沢山使った料理をバランスに配慮して全て手作りで食事を提供している。食事の準備や片付けはできる範囲で利用者と一緒にやっている。お盆ふきは、ほとんど利用者が一人でふいてくれており、できることを積極的に行っている。	
			(外部評価) 「調理には出汁から全て取っています。最近まではマヨネーズも作っていました。」と管理者が言い、代表者が食べるものにこだわっている事が分かる。昼食後、満腹になっても微かな脱力感が出ないのは、そのこだわりからだと思われる。これは高齢者の健康維持に大きな貢献を果たしていると考えられ、高く評価すべき点であろう。「料理と言うものを考え直しました」と職員は言い、家庭の食生活まで変えた代表者の影響力は甚大である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 好みや習慣を把握し、十分な水分摂取ができるよう摂取量をチェックして職員全員で気をつけている。バランスのよい食事の提供には十分配慮している。好き嫌いなど、偏食がある場合は、違った形で摂取できるよう方法を検討して対応している。健康管理と共に、状況に応じ主治医にも対応策を相談している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食前の口腔体操を行い、食後は毎回個々にあった口腔ケアを実施している。義歯は每晚洗浄消毒している。口腔ケアの際は、個々の口腔状態を把握し、異常はないかを実際に見て把握し、必要に応じて、専門医を受診し、適切な処置や指導を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄をトイレでできるようにトイレチェック表を使用して一人一人の排泄パターンを把握し、「おむつ0ゼロ」を目標に、おむつやパット使用を減らせるよう努めている。認知症の重度化により、尿失禁が増え、パットを使用している利用者でも、きちんと便座に座り排泄が行えるよう支援している。 (外部評価) 利用者は昼間だけでなく夜間もトイレで排泄している人が多い。利用者の平均年齢が比較的高いにもかかわらずである。これは職員の介助に気兼ねがないためであろう。職員の「トイレで排泄した方が気持ちがいい」と利用者の本音を察知している表れでもある。利用者の状態を見てポータブルやパッド等を使う場合もあり、利用者に気を使わせない排泄支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適度な運動、水分の摂取、食物繊維の多い食事など予防・対応に努めている。食事・水分などは、個々の摂取量を把握し、状態の変化を把握できるよう記録している。きな粉牛乳や、腹部マッサージも行っている。必要に応じ、主治医に相談して指示や処方を受けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者は毎日夕方、入浴をしている。入浴の順番や洗髪など利用者の希望や身体の状態に応じて対応している。家庭用ユニットバスの個人浴であり、また利用者と職員とのコミュニケーションの場になっている。身体の状態により、本人にあったシャワー椅子を工夫している。 (外部評価) 浴室は2階はゆとりのある家庭用サイズであるが、1階は3～4名が一緒に入れる広さがあり、介助が2人の場合もゆっくり作業ができる。利用者にはどんな状態でも入浴を楽しんでもらいたいという代表者の思いからこの広さを計画したのだろうが、事業所は開設して14年目なので、代表者に先見の目があった事が分かる。この思いは連綿と職員に引き継がれており、優しい入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間しっかり安眠できるよう、日中身体を適度に動かせる支援をしている。生活リズムを整え、個々のペースで過ごせるよう配慮している。安眠を妨げないトイレの声掛けにも配慮している。体調などにも留意して、必要な休息がとれるよう、また、入眠まで落ち着いた時間が過ごせるよう配慮している。季節により考慮し、気温や室温にも注意し調整をし、快適に安眠してもらえるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) H26年10月より平野薬局と提携し（一部の利用者さんを除いて）日々の健康管理と主治医との連携を密にし、処方されたものは処方箋等で、目的、副作用、用法、用量などを十分理解して、チェック表により確認を慎重にしながら服薬管理をしている。必要に応じ、薬剤師さんが主治医へ状況を連絡して、治療や服薬調整を行い、錠剤を粉末に変えるなどの工夫をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や希望などを把握し、一人一人が生活に楽しみや生きがいを見つけられるよう日々の余暇活動を考えて支援している。家族や友人とのお出かけなど、外出や外泊も個々で自由にしていただき、気分転換が図れている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の行事や買い物、季節のお出かけなど、楽しみながら過ごせるよう支援している。家族とドライブやお出かけなどもよく行かれている。フロアでの外出が難しくなっているが、安全に外出できるよう職員間で話し合い、計画をし、利用者が地域に関われるように努めていきたい。 (外部評価) 法人が他の事業も運営しており、外出する際の車両は整っている。そのため遠出の外出を定期的に行っている。日々の外出は外気浴を意識した散歩や庭での草花観賞等である。事業所が道路から少し入っているため利用者の安全は担保できている。何より1階リビングから庭に出やすい設計であるため、季節を肌で感じるためには有効である。隣接している小規模多機能施設の利用者との雑談も外出の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の希望や力に応じて支援している。お小遣いとして預かっているお金の管理状況を、定期的に家族や本人に伝えて、合意を得ている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 月1回の施設でつくっている新聞に状況を綴った手紙を入れ、家族へ送っている。個々の希望により、電話で要望を伝えるなど支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 段差のないバリアフリー構造である。手すりも設置している。室温は、床暖房、空調設備を設置し、体調面へ配慮しながら調整している。生活の音や炊事の香り、絵画や工作物、テーブルの上には季節の花など、季節や五感に刺激のある環境が作られるよう利用者と一緒に楽しみながら行っている。 (外部評価) 共用空間は、リビングとダイニングを区分けしてもまだまだ余裕があり、グランドピアノを置いているが圧迫感は全然受けない。音楽療法をしていても興味を示さない人はダイニングから眺めていると言うが、その距離感は理解できる。東南向きの4連の大きな窓からは風が気持ち良く入ってくる。利用者はリビングでみんなと居ながら自分だけの空間を楽しめるという、ゆとりある生活を共用スペースで送ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食卓の間、ソファの間、畳の間など、ゆったりと過ごせるスペースがある。庭にも自由にできることができ、ベンチを置き、庭には四季折々の花々が咲き憩いの場となっている。また自室に花を置かれて、毎日水かえをされている人もおられる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は、家族に依頼し、自宅で使っていたもので馴染みのモノをもってきていただき、過ごしやすく居心地のよい部屋をつくっていただいている。手作りのカレンダー、工作物を飾っている。 (外部評価) 各居室にはベッドと収納があり、布団と着替えがあれば生活はできるが、利用者がそれぞれの思い入れがある物を配置し個性的な部屋になっている。ベッドの位置が利用者の身体特性に合わせ部屋毎に違っているのは事業所の配慮と考えられる。自室に案内してくれた利用者が「何にもない」とほほ笑んでいたが、記念写真やイベントの作品の説明は少し自慢げであった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) それぞれ入居さんさんの状況把握に努め不安や混乱なく安心して過ごして頂けるようにコミュニケーションを取り、工夫しているフロアのカーテンが閉まってないと不安がったり戸締りが気になる方が多いので、目の前でカーテンを閉めたり、安心できるようお話をしている。	